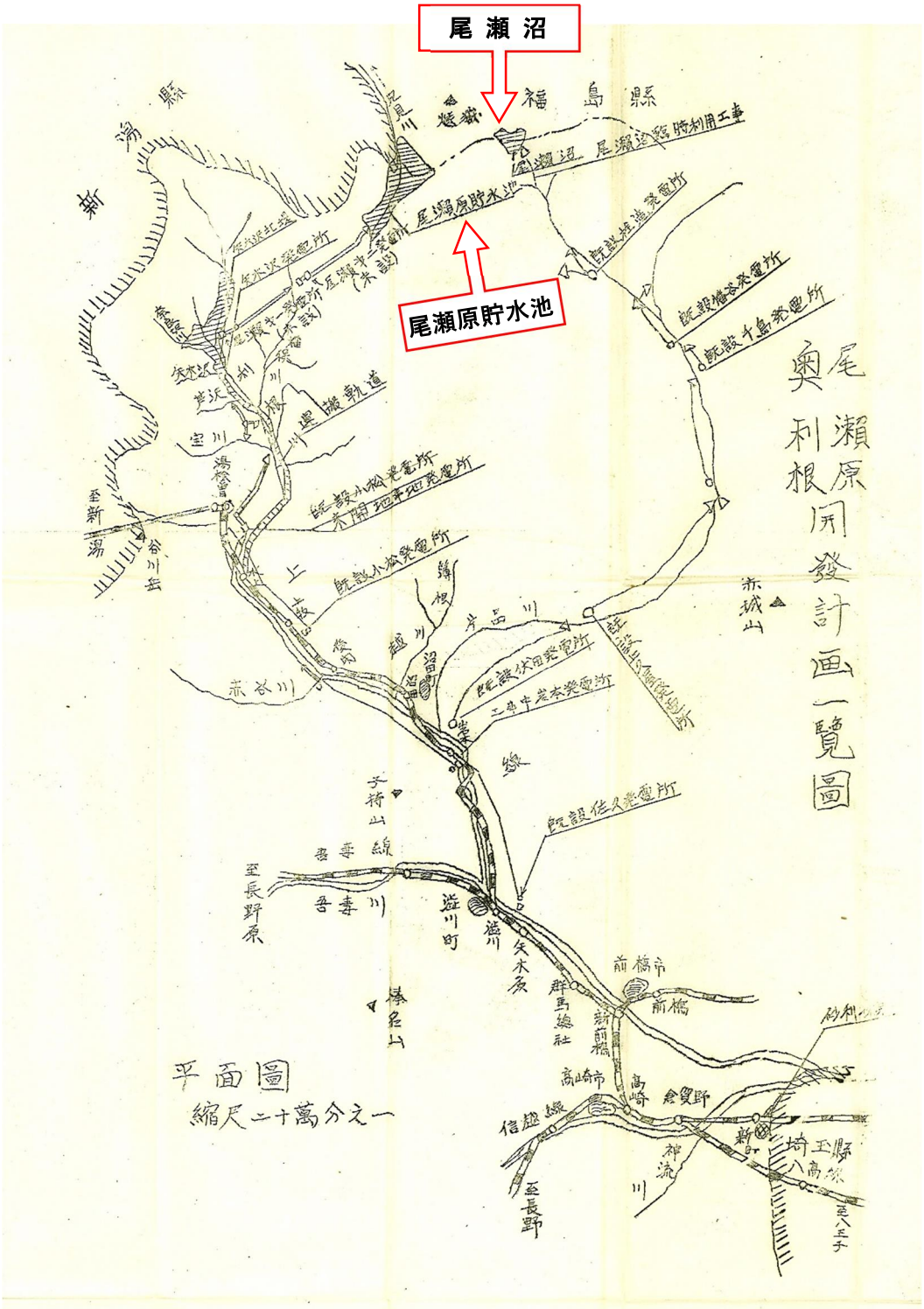
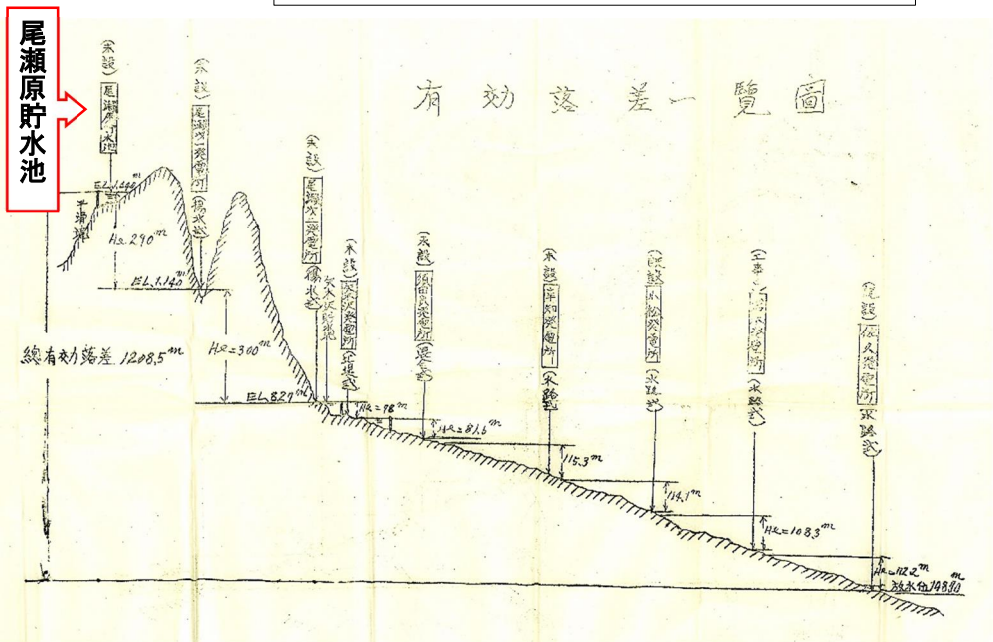


24 尾瀬の水をどう使うか② —利用と保全のはざま—

昭和 23（1948）年

群馬県庁の河川課が作成した「尾瀬原の改發（開発）に就いて」に添付された「尾瀬原奥利根開発計画一覧図」および「有効落差一覧図」。

戦後の深刻な電力不足を背景に、群馬県庁が尾瀬原から奥利根地域にかけて水力発電開発を検討した際の計画図です。主要河川の流域や、当時計画中のダム・発電所と既設施設の配置が示されているほか、尾瀬ヶ原貯水池から佐久発電所（渋川市）までの落差を詳細に描いた「有効落差一覧図」も作成され、発電量を最大化するための具体的な検討が行われていたことが分かります。戦後復興期における県のエネルギー政策の構想を示す貴重な資料です。

群馬県行政文書『河川関係綴（群馬県総合開発計画調書他）』（A0384A0G 2000 1/2）